

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地区	高瀬 地区	市長・副市長の出席	市長・副市長
日時	平成 30 年 10 月 11 日 (木) 19:30~21:00	場 所	高瀬公民館 集会室
地区 参加者	松竹 銭淵町自治会長(地区理事)、 長 琴平町自治会長、 木下 大日町自治会長、 原田 上野町自治会長、	渡辺 大宮町自治会長 東 誠和町自治会長 佐藤 串川 2 丁目自治会長 木谷 高瀬本町自治会長	計 22 名
担当 グループ	リーダー	鈴木 教育次長 (欠席)	副リーダー 高野 まちづくり推進課長
	プレゼン テーター	中島 商工労政課長	連絡調整担当 渡邊 選挙管理委事務局長
	書 記	川津 中津江振興局長	
	構成員	伊藤 長寿福祉課長、池田 監査指導課長、大島 延寿寮長	
	その他		
議 題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		中島 商工労政課長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		中島 商工労政課長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(意見)

- ・吹上町と比べ大日町の防災体制は遅れている。町内の範囲 4 km 四方を災害から守る為には、防災無線が 1 基しかなく無理。是非とも防災無線の増設をお願いしたい。
- ・各家庭への告知受信機の設置も必要で、市が推進している防災メールなど、ツールとして他に良い物はないか。部屋の中では大雨の際、防災無線が非常に聞き取りにくい。

(回答)

- ・市内の地域によっては情報の入手手段が違うと思うが、市としては災害情報の伝達方法を色々と考えている。例えば防災ラジオというものがあり、電源を切ってもいざというときには強制的に電源が入る。また、文字も出たりして衛星放送で受信できる仕組みになっている。8月に受

信状況を確認したところ、市内全域をカバーできることが解った。しかし、市内全戸となると、莫大な費用がかかるが取り入れたいと考えている。

- ・市内の場所毎に雨などの危険度が違うため、163の自治会にメールの内容を変えて送ることもできる。その為には、現場毎の情報を市とやり取りするオペレーターとして自治会長さんか、やり取りできる人からもらいたい。安否確認が取れない地域の回避手段として必要だと考えている。

(意見)

- ・琴平町では、高瀬川流域は危ないと思っているが、それ以外は危ないという認識を持っていない人が多くて災害の危機意識が薄い。しかし、雨の音や川の音で防災無線が聞こえないことは実際にある。市の予算もあるだろうから、防災無線の入らないところを優先的に整備したらどうか。
- ・老いた人はメールを使わない。市の説明や防災士の育成が必要だと思う。ただ、若い防災士の人たちは仕事を持っており、会社の理解が必要だ。市から勤め先への理解をお願いしてもらいたい。
- ・高瀬地区では川を中心に防災への取組が必要だが、今まで災害が無く、日ごろから住民の認識が低いので、これを改めていきたい。

(回答)

- ・災害対応としては、地域力として地域での「共助」が必要で、吹上町では要支援者の方を誰が助けるか、人を決めている。朝・昼・夜では災害に対する対応が変わってくる。コミュニティーケアだけは地域で是非やってもらいたい。
- ・耶馬溪みたいに、ある日、突然、どこに、どういった災害があるかもしれない。高瀬川もどうなるかわからない。10年以内に大きな災害が来ると気象台は言っている。やはり災害への危機感をいつも持つておかないといけない。必要であれば、市から講師を派遣したい。日本一の防災力をつけてもらいたい。

(意見)

- ・九州北部豪雨の際、釈迦岳から流れてきた水で徳行橋の橋桁に流木が引っかかって、危うく堤防を越えかけた。橋桁が近すぎたこともあるが、橋の上の20~30mの改良も必要と考える。
- ・場合によっては、橋の架け替えや流木止めの設置も必要と思う。市長に県へのプッシュをお願い

したい。パラペットができればいいのだが。

(回答)

- ・橋も1本、4～5億円かかり、県としてもかなり厳しいと思う。上流から流木を出さない山林管理が必要だと思っている。

(意見)

- ・個人情報の関係はあると思うが、火災の際に出火場所の情報をもう少し具体的に、何処どこ地区の何々さん宅とか言えないのか。次の日には新聞に載るのだから、教えてもいいのではないか。

(回答)

- ・「個人情報の問題があって難しい。」理解してもらいたい。また、火災現場の混乱もあり難しい。
- ・過去、自治会で介護が必要な要支援者を災害地から避難所へ運ぼうとして、「なぜ要支援者ということを知っているのか。」とお叱りを受けた例があり、個人情報の取り扱いには非常に難しさがある。

(意見)

- ・上野町の製材所火災の時に水が無かった。理由は消火用水栓の蓋が開かなかったからだ。側溝の水を使えるように「差し蓋」の設置をして、水を取れるようにできないか。また、災害時に避難した時、南部中学校の避難所が開いてなかった。

(回答)

- ・消火用の水の問題は、この場ではお答えできないが、避難所対策は実に大きな問題であり、避難所の見直しが必要ではないかと考えている。
- ・避難のあり方として、自分の家の2階が安全かもしれないし、わざわざ遠い避難所に行かなくても、近くに安全な場所があるかもしれない。
- ・来年の夏ごろ迄には避難所の見直しをやりたい。自主避難所や指定避難所の見直しを、自治会長さん方をお願いして整理したい。避難して亡くなつては、もともこもない。

(意見)

- ・南部中学校の避難所には市の職員はつくのか。

(回答)

- ・指定避難所には職員が付く。市職員が災害時直ぐに行けないこともあるが、指定避難所はなんとかして早く開けるように努めていく。

(意見)

- ・24年災害時に、南部中学校は開けていた。

(回答)

- ・指定避難所の食べ物は、最初から提供はできない。災害が長期化すれば別だが、とりあえず食料等の準備をご自分でお願いしたい。

(意見)

- ・老人会へも市から話をして、災害時の行動の大切さを意識的に深めてもらえないか。

(回答)

- ・今日が、まさにその説明の場として考えてもらいたい。会合への講師派遣を行うことはできる。老人クラブの方へは先日防災について話をさせてもらったところで、予定では来年の1月に老人会へ説明することになっている。

(意見)

- ・串川町で行った24年災害復旧工事のあり方だが、今回の大雨で砂利が流出して岩盤とコンクリートの間に隙間ができた。設計や工事をした業者が悪いのか、または市の方がこんな工事を見過ごしたのか。この件で市の土木課と農業振興課に電話したら、何の説明も聞かないまま、県の方だから、うちの方の関係じゃないと冷たく話を聞き入れてもらえなかった。その後、県が来て見てくれたが。

(回答)

- ・どういった状況か解らないので、現場に職員をやって状況を見させたい。

(意見)

- ・上野町のバッティングセンター上のカーブの上。谷側が保安林で砂地のため、農業用水路からの流水で洗掘されている。土砂で埋め戻したが、保安林だから勝手に埋めると問題になると言われた。しかし、他人の田んぼに土砂が流れ込んで迷惑がかかってしまう。

(回答)

- ・一度、現場を見てみたい。

(意見)

- ・いや、現場は既に見てもらった。

(要望)

- ・徳行橋の上流に昔から渡り石があって、29年の工事の時に外された。国土交通省は、後で元に戻すと言っていたが一向に戻さない。琴平町の子供の通学路であり住民の利用もあるので、渡り石の復旧を県へ要望してもらいたい。市にしてくれと言っているのではない。

(回答)

- ・「琴平町の住民からこうした要望があったことを県には伝える。」